

表彰

◇会長大賞

情報通信研究機構 フェロー 増子 治信 様



<プロフィール>

- ・1950年生
- ・1979年 筑波大学理学博士（物理学）、郵政省電波研究所入所
- ・1999年 科学技術庁長官賞（研究功績者）
- ・2006年～2011年 情報通信研究機構 首席研究統括
- ・2009年 紫綬褒章、情報通信研究機構 フェロー
- ・2011年～現在 情報通信研究機構 特別招へい研究員

<業績>

我が国初の航空機搭載のXバンド合成開口レーダ（SAR）を開発し、世界で最も高い分解能（地上分解能1.5m）を実現するとともに、偏波による対象の識別機能（パラメトリ）及び2アンテナ間の干渉による3次元観測機能（インタフェロメトリ）を実現した。本システムは、昼夜・天候にかかわらず、火山の噴火状況、広域の地震被害状況等を把握することを可能にし、運用を通じて災害監視、災害復旧対策、農林業、地図作製等に対する高分解能SARの有効性が実証された。特に、三宅島や有珠山の火山噴火災害では、噴煙で上空からの写真撮影が難しい状況の中、本航空機SARで観測した被害状況に関するデータを関係機関に速やかに提供してその対策に生かされた。

表彰

◇会長賞

情報通信研究機構 セキュリティ基盤研究室長

盛合 志帆 様



<プロフィール>

- ・1971年生
- ・1993年 京都大学卒業、日本電信電話株式会社入社
- ・2003年 博士(工学) (東京大学)
- ・2003年 (株)ソニー・コンピュータエンタテインメント入社
- ・2007年 ソニー株式会社入社
- ・2011年 平成23年度工業標準化事業表彰 産業技術環境局長表彰
- ・2012年 情報通信研究機構入所 ネットワークセキュリティ研究所
セキュリティ基盤研究室長
- ・2014年 平成26年度科学分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 開発部門
- ・2016年～現在 同 サイバーセキュリティ研究所 セキュリティ基盤研究室長

<業績>

暗号技術の研究開発と普及・標準化に取り組み、特に、共通鍵暗号 Camellia や軽量暗号 CLEFIA の設計開発・安全性評価や、ISO/IEC、IETF 等での国際標準化に貢献した。また、暗号技術の産業界での利用を進め、PlayStation 等の製品・サービスへの活用に中心的に取り組んだ。また、我が国の電子政府における調達のために参照される電子政府推奨暗号の安全性を評価・監視し、暗号技術の適切な実装法・運用法を調査・検討する CRYPTREC プロジェクトの事務局として長年貢献を行った。近年は、量子コンピュータの実現に備えた新暗号技術の開発や、暗号化したままのデータ解析や機械学習を可能とするプライバシー保護データマイニングの研究開発プロジェクトを推進するなど、新しい暗号技術の展開に取り組んでいる。

表 彰

◇会長賞

情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究室長

井上 大介 様



<プロフィール>

- ・1974年生
- ・2003年 横浜国立大学 博士（工学）、通信総合研究所入所
- ・2009年 科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞）
- ・2011年～現在 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究室 室長
- ・2013年 グッドデザイン賞
- ・2014年 Asia-Pacific Information Security Leadership Achievements
- ・2016年 産学官連携功労者表彰 総務大臣賞

<業績>

日本最大規模のサイバー攻撃観測・分析システム「NICTER」（ニクター）の研究開発に携わり、無差別型攻撃の大局的な状況把握を可能にした。また、対サイバー攻撃アラートシステム「DAEDALUS」（ダイダロス）を開発し、地方自治体の約1/3にアラート提供を行うなど、実践的な研究成果の展開を続けている。一方、標的型攻撃対策技術として、組織のセキュリティ・オペレーションを支援する、サイバー攻撃統合分析プラットフォーム「NIRVANA 改」（ニルヴァーナ・カイ）を開発し、国内の複数組織に導入が進んでいる。さらに、標的型攻撃の攻撃者を模擬的な組織のネットワーク環境に引き込み、ステルス性の高い攻撃観測を可能にするサイバー攻撃誘引基盤「STARDUST」（スターダスト）を開発するなど、先進的かつ実践的なサイバーセキュリティの研究開発を行うとともに、研究成果の社会展開を積極的に進め、日本のセキュリティ向上に寄与した。